



一人ひとりに適した治療法を選択
患者さんを継続して支援できる
“ホームグラウンド”を目指す

医療法人社団 高志館
レイクタウン整形外科病院
埼玉県越谷市

「レイクタウン整形外科病院」は、自身の関節を生かす「骨切り術」のほか、膝関節や股関節の「人工関節置換術」など、患者さん一人ひとりに適した治療法の提案をモットーにしている。治療後、継続して患者さんを支え、「患者さんのホームグラウンド」となることをコンセプトに2017年4月、開業。口コミを中心に着実に患者数を伸ばしている。



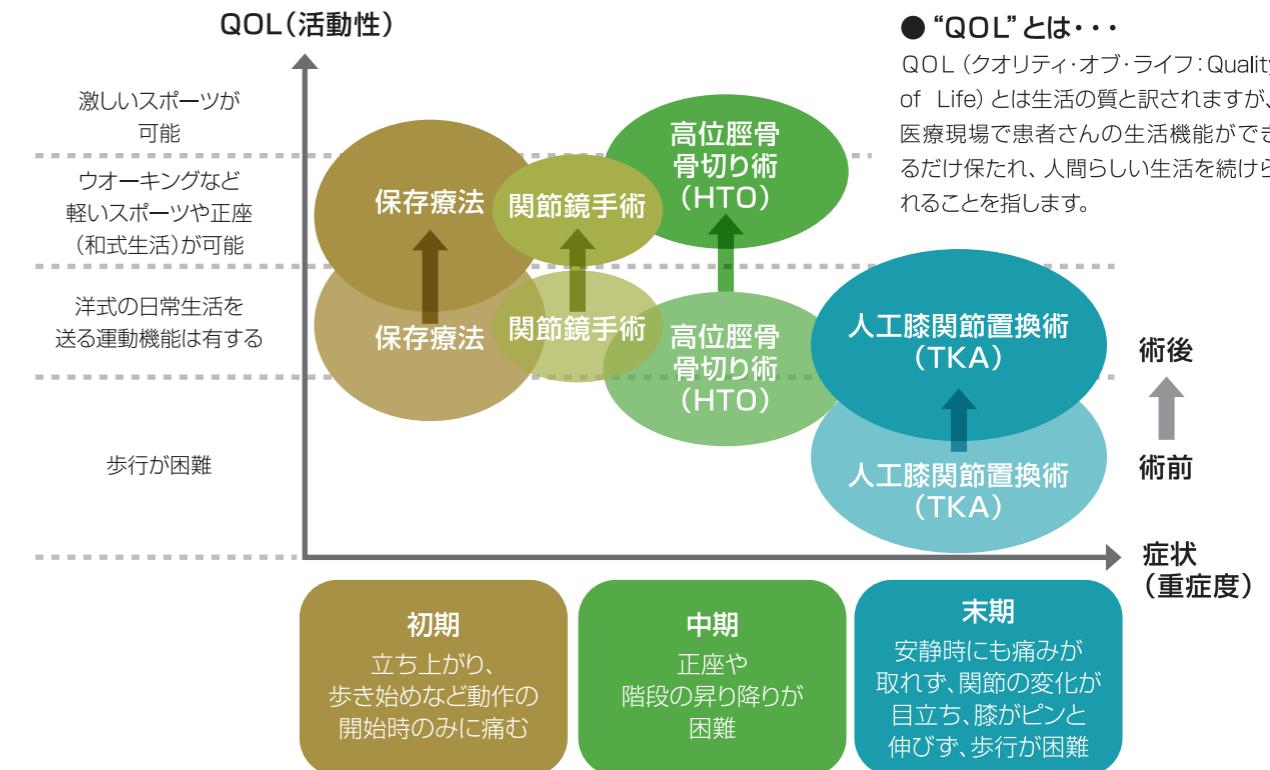
医療法人社団 高志館
レイクタウン整形外科病院
〒343-0828
埼玉県越谷市レイクタウン5-13-6
TEL:048-987-2277
<http://laketown-ortho.com>
■診療科目: 整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科
■病床数:30床

患者さんは術後も
ずっとその地域にいる
継続して診ていくには
自分が定位置にいる
必要がある

医療法人社団 高志館
院長
安村 建介氏



重症度における治療ごとの術前及び術後 患者さん回復予想図(膝関節)



オリンパス テルモ バイオマテリアル株式会社発行「膝の痛みと治療方法」より

下肢のつながりを重視した治療を提案

安村建介院長は、畜産学や森林経営学を学ぶなど異色の経歴を持つ。

「医師になりたいという思いはありました。自然科学を学びたいと畜産学科へ進学しました。卒業の際、父の勧めもあり、英語を身につけることも目的の一つとして米国の大学に進学。日本人がほとんどいない中で森林経営学を学び、そこを卒業する時は、20代半ばでしたが、研究職に就くには年齢的に遅いと感じ帰国。再度、医師を目指し、半年間勉強して獨協医科大学に入学しました。整形外科を専門にしたのは治療で元気に動けるようになり、結果として生活や人生を変えられる診療科目に興味を感じたからです」と振り返る。

挫折や失敗を経験し、さまざまな人たちと出会ってきたことが、今の基礎となっている。「弁理士の父は、欧米と日本の特許出願制度の違いを研究したいと、83歳でハワイの大

学に入学しました。若いころは厳しい父から離れたいと思いましたが、自分が年齢を重ね、身体的に老化を感じるようになると、父の活動力はすごいなと思います。また、森林経営では、物事をロングタームで考えることを学びました」。

広い視野とロングタームで考える姿勢は、整形外科を学ぶ際にも生かされた。日本整形外科学会のホームページを見ると、下肢は「股関節外科」「膝関節外科」「足の外科」とそれぞれに専門が分かれているが、安村院長は、「各関節のつながりが重要」と考えている。

「国内留学をしていた北海道のえにわ病院では、膝、股関節をそれぞれ専門に学び、人工関節置換術も身につけました。広い範囲を学んできたことを生かしたいという思いに加え、大学病院で治療を待っている多くの患者さんにタイミングに対応してあげたいという気持ちも募っていました。また、手術した患者さんを継続して診療することで、安心した生活ができるように支援していきたいと考え、開業を決意しました。手術を伴いますから、入院施設が不可欠です。知り合いを通じて総合メディカルを紹

介してもらい、病床の確保や開業地の選定などでも協力していただきました。おかげで順調なスタートが切れたと思います」。

患者さんが望む生活を支えることが治療

同院がある埼玉県越谷市東部は1996年から、治水と新市街地整備を目的に大規模な開発を進めてきた。2008年にJR越谷レイクタウン駅や商業施設が開業し、14年には住所名もレイクタウンに変更。発展が続いている地域だ。

開院から半年の外来患者数は約6,400人で、手術件数は約160件にのぼる。勤務医時代の患者さんのほか、レイクタウン居住者や近隣地域からの新患も増えている。患者さんの口コミで来院した人も多く、安村院長やスタッフの丁寧な対応が評価されているようだ。

安村院長は「症状や患者さんの生活を考えて、複数の選択肢を提示し、適切な治療を心がけています。それが患者さ

んの満足度の高さにつながっているのでしょう」と分析する。

同院は患者さん一人ひとりの症状や生活状況に配慮しながら、保存療法や手術療法を提案している。症状が軽い場合は、減量を促すほか、正座や長時間歩行、階段昇降等の動作、立ち方、歩き方、筋トレを指導したり、また、杖などを使用し、膝にかかる負担を軽減するよう提案する。また、消炎鎮痛剤や、湿布、関節内注射を使用する薬物療法、運動などの理学療法、装具療法も行っている。

手術療法は次の3つを中心に行っている。

①関節鏡視下手術

関節鏡で観察しながら、変性した半月板や軟骨等を処理。傷が小さく、手術後数日で歩行可能ため、早期に社会復帰できる。病状が進行した場合には適応が多い。

②高位脛骨骨切り術(HTO手術)

O脚変形のため内側にかかりすぎている重心を外側に移動させる手術で、すねの骨を切り少し角度を変えること

安村建介院長の手術症例

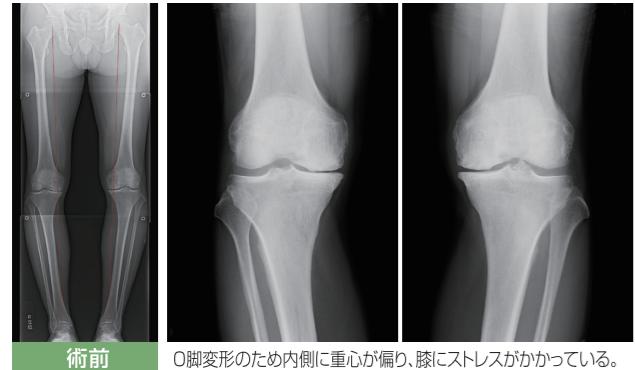
	THA	TKA	Bipolar/Kotz	股温存手術	膝温存手術	(件数)
2006年	11	35	1	0	0	47
2007年	12	13	6	0	0	31
2008年	40	39	6	0	4	89
2009年	73	49	8	5	4	139
2010年	81	27	4	4	9	125
2011年	53	37	1	4	9	104
2012年	73	50	1	4	15	143
2013年	67	41	3	4	16	131
2014年	75	34	5	2	26	142
2015年	62	32	3	5	20	122
2016年	62	34	5	2	22	125
2017年(11月末まで)	67	30	3	4	32	136
	676	421	46	34	157	1334

全置換型人工膝関節



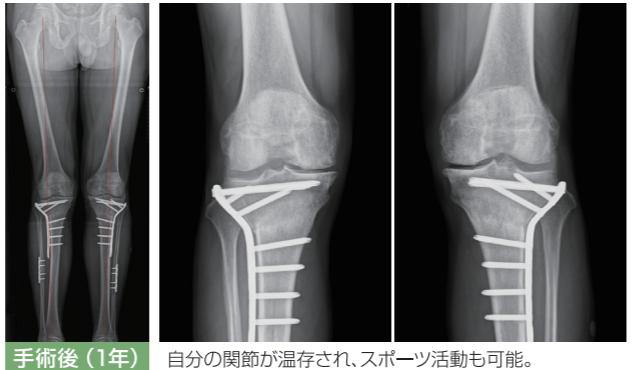
ひざ全体が大きく変形し、痛みが強く日常生活に支障がある場合に実施。

高位脛骨骨切り術



術前

O脚変形のため内側に重心が偏り、膝にストレスがかかっている。



手術後(1年)

自分の関節が温存され、スポーツ活動も可能。



患者さんとの何気ない会話から、本人の望む生活や困りごとなどを把握する受付スタッフ。



術後の感染症に配慮し、清潔な環境を整えている個室。



主に保存療法や生活面での工夫などを指導する処置室。



術後早い段階でのリハビリ開始で、日常生活への復帰もスムーズに。

特集 新時代の医療提供体制を探る

で、比較的きれいな軟骨がある外側に重心を移動させる。膝関節が温存できるので、正座が汚き続き可能であったり、テニスやジョギングなどのスポーツや農業・土木業など重労働の仕事をする方々が術後やりたいスポーツができた、仕事に戻れたと幸せな生活を続けている。

③人工関節置換術

TKA(人工膝関節全置換術)、THA(人工股関節全置換術) 变形した関節の表面を金属などでできた人工の部品に置き換える手術。変形性膝関節症の末期で、関節全体が大きく変形し、痛みが強く、立ち座りや歩行など、日常生活に支障をきたす場合に行う。例えば、外にゴミを捨てに行くのも困難な変形性関節症の方が、術後30分以上歩けるようになり、生活の質は大きく向上したと喜ばれている。

安村院長は「医師は患者さんの痛みをとるだけでなく、何をするために治したいのかを第一に考えなければいけない。旅行に行きたい、踊りたい、茶道をしたいなど、患者さん

が望む生活を可能とする治療が大切だと思います。決して、医師主導であってはならない」と強調する。

海外医師の研修受け入れも目標

安村院長は、「常に次の手術がある可能性を想定して、初回の手術を行うことが大事である」という恩師の言葉を大切にしている。人工関節には寿命があるため、60歳以上が対象と教えられてきたが、近年は手術技術や医療機器の進歩により、対象年齢が低下してきている。一方、人工関節置換術は、術後経過の中で再手術を必要とする場合があり、初回手術の際はインプラントの設置位置や設置角度、母床骨の温存、インプラント選択に対し細心の注意を払っている。

「例えば、人工股関節手術では、患者さん自身の骨にステム(大腿骨側の部品)を埋め込みますが、当院では生理的荷重伝達が得られ、必要時には抜去し易いセメントシステムを

使用しています。セメントレスシステムを使用する医療機関も多数ありますが、再手術でステムを抜くとき、骨が割れるケースも少なくありません。骨が割れてしまうと、後療法が長くなり、患者さんの生活に大きな支障が出てしまします。当院では手術の際、何十年後も患者さんが望む生活ができるよう多方向から配慮しています。また多くの患者さんは、この地域で生活を続けますから、私自身も当院を定位置とし、継続して診察していく必要を感じています。別の医療機関で手術を受け、その後当院に通うようになった患者さんには、できるだけ今までの病歴や生活歴を教えてもらうようにしています。関節を診るだけでなく、生活全体を見て支えていくことが目標です」と安村院長は語る。

「今まで、国内外の本当に多くの先生たちにお世話をになりました。その恩を返すため、東南アジアの医療者向けの研修も行っていきたいです。日本の高い医療技術をアジアの人たちに伝えることが、お世話になった人たちへのお返しになると考えています」と夢を語る。

安村建介院長の歩み

- 1986年 琉球大学農学部畜産学科卒業
- 1989年 米国北アリゾナ大学森林經營学部卒業
- 1996年 獨協医科大学卒業。同大越谷病院整形外科入局
- 2006年 えにわ病院(北海道恵庭市)へ国内留学
- 2012年 獨協医科大学越谷病院学内准教授
- 2016年 新久喜総合病院整形外科医長
- 2017年 医療法人社団高志館レイクタウン整形外科病院開業

免許・資格

- 日本整形外科学会整形外科専門医
- 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- 日本整形外科学会認定リウマチ医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医